

| | |
|----------|---|
| 活動名 | 羽根ペン教室 本物の羽根で書くゴシック体のグリーティングカード |
| 代表者氏名・所属 | 馬場幸栄：比較社会文化学専攻 D3 |
| 構成員氏名・所属 | 近藤佳代：比較社会文化学専攻 D3 大林あゆみ：比較社会文化学専攻 D1 磯部末利花：比較社会文化学専攻 M2 橘内沙稀：比較社会文化学専攻 M1 齋藤愛：比較社会文化学専攻 M1 吉田絵理：比較社会文化学専攻 M1 |

学生・教員・職員が、理系も文系も、共に学ぶ

「羽根ペン教室：本物の羽根で書くゴシック体のグリーティングカード」は、学生・教員・職員が、職務の違いや専門分野を超えて一緒に楽しく学べる学習交流イベントとして、お茶の水女子大学の大学院生 7 名によって企画されました。2014 年 11 月 1 日（土）に開催された羽根ペン教室の参加者は、総数 39 名のうち、26 名が文系、13 名が理系でした。参加者の大半を占めたのは学生で、37 名でした。教員と職員の参加者は、1 名ずつにとどまりました。

ハンズオン展示とクイズで学習

羽根ペン教室は、講義（55 分）と実習（90 分）の二部構成で実施しました。前半の講義は、実際に資料に触れてみる「ハンズオン展示」とクイズとを通して、ヨーロッパにおける筆記具の歴史を学ぶ、という内容にしました。講義は、本企画の代表者が担当しました。参加者たちは、蜜蝋板・パピルス・羊皮紙・古文書・写本や印刷本の零葉・尖筆・葦ペン・羽根ペン・没食子・アラビアゴム・鉱物顔料などを、実際に触ったり匂いを嗅いだりしながら、クイズの答えは何だろうと議論して、おおいに盛り上がりました。

自分で羽根ペンを削り歴史的書体を書く

後半の実習では、参加者ひとりひとりがガチョウや七面鳥の羽根を削って、本物の羽根ペンを手作りしました。羽根を削る作業ではカッターを使用したため、参加者の怪我が心配でしたが、企画者である 7 名の大学院生がスタッフとして羽根の削り方を指導して回ったため、全員無事に羽根ペンを完成させることができました。

さらに参加者は、歴史的書体のひとつである「ゴシック体」のアルファベットの書き方を学びました。そして、出来たての羽根ペンを使って、ゴシック体で「Thank You」と書かれたグリーティングカードを作りました。実習で制作した羽ペンとゴシック体のグリーティングカードは、参加者の方々に、記念に持ち帰ってもらいました。

教員や職員の参加しやすさが今後の課題

イベント当日に記入してもらったアンケートには、「実際に資料に触ることができて貴重な体験となった」「歴史的書体に興味が沸いた」「このようなイベントをもっと開催してほしい」と、好意的な感想が多数寄せられました。また、本イベントをきっかけとして参加者同士の交流が増えた、という報告もありました。しかし、いっぽう教員や職員からは、「次回は平日に開催してほしい」「週末は家族との用事があって、参加できなかった」「土曜は研究会があって、参加できなかった」という声も寄せられました。

これらの意見を受けて、次回は平日にイベントを開催しようという結論に達しました。ただし、平日の場合は、授業と重なって参加できなくなる学生が出るおそれがありますので、次回は、平日の異なる曜日に2回以上開催したいと考えています。



写真1 パピルス巻字本のハンズオン展示



写真2 クイズのヒントとして渡された羊皮紙



写真3 インクの材料に使われた没食子を観察



写真4 ペンにする羽根を選ぶ参加者たち



写真5 初めての羽根ペン削り体験



写真6 ゴシック体を筆写する参加者たち